

## 心の中に平和の灯を

主な内容：平和と人権について

### 1 テーマの背景及び指導の観点

- (1) 「ユネスコ憲章」には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と示されている。また、国際連合の「平和の文化に関する宣言」には、「平和とは、ただ単に紛争がない状態ではなく、相互理解と協調の精神で対話を奨励し、紛争を解決する積極的で活力に満ちた参加のプロセスを必要としている」と明記されている。
- (2) 「教育基本法」の前文に述べられているように、「世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する」ことは、日本国憲法において定められた日本国民の決意である。平和は、人間の心の内に確立すべき課題でもあり、日常生活の中で平和を実現していく努力こそ、民主的で平和的な社会及び国家を実現するうえで重要である。
- (3) 指導に際しては、社会的事象を多角的・多面的に考察・分析し、人権尊重の視点に立って考え、解決しようとすることの大切さを認識させる。また、日常の生活において発生する対立を、平和的に解決する力を日々の教育活動の中で育成することも大切である。さらに、国際社会の一員として、互いの文化を理解し、尊重しようとする態度を育成するとともに、文化や生活習慣の違う国の人々と豊かに共生することができる社会の実現に向けて取り組もうとする意欲や態度を育成することが大切である。

### 2 展開例（研究課題(1)）

#### (1) 学習のねらい

国際社会における平和に対する考え方の変遷を理解し、自分の心の中に平和を確立しようとする意欲や態度を身につける。

#### (2) 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 国際社会における平和に対する考え方の変遷を調べる。	○ 冷戦終結の前後で、平和に対する考え方がどのように変化したかに着目させる。
2 国際連合の果たす役割を考える。	○ 関連教科の学習内容と関連付け、グローバル化など、社会の変化も視野に入れさせる。
3 平和の実現に向けて、何が大切か話し合う。	○ 国際社会や国家の取組だけでなく、日常生活のレベルからも考えさせる。
4 ふり返りを行う。	○ 人類の平和と共存に向けて、自分の心の中に平和を確立しようとする意欲や態度を身につけさせる。

### 3 参考

#### (1) ユネスコ「わたしの平和宣言」

- ① **すべての人の生命を大切にします**  
差別や偏見を持たないで、一人一人の生命と人権を尊重します。
- ② **どんな暴力も許しません**  
積極的に非暴力を支持します。特に弱い立場にある幼児や青少年に向けられた身体への暴力、性的虐待、精神的苦痛などのあらゆる暴力を許しません。
- ③ **思いやりの心を持ち、助け合います**  
社会的差別、不正、政治的・経済的抑圧をなくすため、思いやり、助け合う心で奉仕活動を行います。
- ④ **相手の立場に立って考えます**  
狂信に陥ったり、他人を中傷したり拒絶しないで、いつも話し合いを優先させ、人の話を理解しようと努めることによって、表現の自由と文化の多様性を守ります。
- ⑤ **かけがえのない地球環境を守ります**  
生態系のバランスを保ち、すべての生命を尊重するよう行動し、自分の行動に責任を持つ消費者としての態度を心がけます。
- ⑥ **みんなで力を合わせます**  
男女が共に力を合わせ、民主的なやり方でいろいろな新しいことに取り組み、自分の暮らす地域づくりのために、いま、ここで、できることから始めます。

#### (2) 名嘉司央里さん（沖縄の高校3年生）が、平成22年6月23日、沖縄慰霊の日「沖縄戦没者追悼式」にて朗読した平和の詩

##### 「変えてゆく」

今日もまたはじまる  
いつもの日常  
当たり前前に食事をして  
当たり前前に好きなことを学んで  
当たり前前に安心して眠りにつく  
そんな普通の日

今日もまたはじまる  
いつもの日常  
当たり前前に基地があって  
当たり前前にヘリが飛んでいて  
当たり前前に爆弾実験が行われている  
そんな普通の日

一見「平和」に思えるこの小さな島  
そこにいつの間にか当たり前ではない  
当たり前であってはならないものが  
入り込んでしまっていた

普通なら受け入れられない現実も  
当たり前前に受け入れてしまっていた

これで本当にいいのだろうか

平凡な幸せを感じながら  
ただただ「平和」を望む今  
簡単にこの違和感を  
無視していいのだろうか

黒いたくさんの礎  
刻まれるたくさんの名前  
そこで思い知る  
戦争が残した傷跡の大きさ深さ  
何も幸せなど生まれなかった  
何も手に入れられたものなど無かった  
すべて失ったものばかりだった  
忘れてはならない

この島であった悲しい記憶  
目を背けてはならない  
悲しい負の遺産  
それを負から正に変えてゆく

それがこの遺産を背負い生きてゆく  
私たちにできること  
変えてゆくのは難しい  
しかし一人一人が心から  
負である「戦争」を忌み嫌い  
正である「平和」を深く愛する  
そんな世界になれば  
きっと正の連鎖がはじまるはずだ

六月二十三日 慰霊の日  
あの黒いたくさんの礎には  
たくさんの人々が訪れる  
そして その一つ一つの名前に触れ  
涙を浮かべながら語りかける

「今年も会いにきたよ」と手を合わせ目を瞑り祈りを捧げる

その訪れた人々に  
「平和」を願わないものはいない

「一度あったことは二度ある」  
そんな言葉を聞いたことがある  
しかし こんな悲惨な出来事は  
もう繰り返してはならない  
だから…

「一度あった事は二度とない」に  
変えてゆこう 平和で塗りつぶしていこう

その想いはきっと届いているはずだから

(沖縄県平和祈念資料館主催 児童・生徒の平和メッセージ最優秀作品)